

プロンプト 1:「個人旅行」と「パック旅行」のサンプル

サンプルは、以下のプロンプト 1 「個人旅行」と「パック旅行」について書かれたものです。

こじんりょこう りょこう
「個人旅行」と「パック旅行」

いか さくぶん おうぼ
あなたは以下の作文コンテストのポスターを見ました。そして、この作文コンテストに応募することにしました。

こじんりょこう りょこう
「個人旅行」と「パック旅行」

し あ くに しゅうかん こじん じゅんび りょこうがいしゃ
知り合いのいない国を1週間旅行するとしたら、個人で準備する「個人旅行」と、旅行会社が準備してくれる「パック旅行」と、どちらで行きますか。

めん あ ひかく いけん
それぞれのプラス面とマイナス面を挙げて比較し、旅行についてのあなたの意見を600字～800字で書いてください。

にゅうしょう かた おうふくこうくうけん ゆうこう
入賞された方には、日本への往復航空券（1カ月有効）をプレゼントいたします。

日本さくら旅行

プロンプト1:「個人旅行」と「パック旅行」

構成・結束性1のサンプル

旅行は何とためにするか。私なら他の国や町へ行けば、必ずいろいろな経験を取りたい。しかし、あまり旅行したことがない。実は、旅行そのもの好きではない。日本で留学生として一年間過ごして、また日本へ行くと、もう旅行の漢字はしない。他のうちに帰る気がする。

一週間旅行するのは意味ないと思う。実は一人で一週間旅行すれば、大変だと思う。絶対一人で楽しくないから、旅行会社のほうがいいのかもかもしれません。グループもいれば、手伝う人もいる。その一方、旅行会社なら、日程やホテル、全部が決まってるから、いやでしょう。

個人的に、一人で行かない。絶対行かないと思うが、一人で一週間旅行したい人なら、最初の質問に答えたほうが良いと思う。

旅行は何とためにするか。それに、何が必要ですか、どんな方法なら快適に行けるか。という質問に答えれば、分かると思う。

個人旅行は最初からグループがない。通訳できる人もいない。誰も、あなたの代わりにしない。それで、経験、言語実習などを目指している人、個人旅行した方がいい。

ガイド、グループ、見物、通訳なら旅行会社だ。

【解説】

一見、パラグラフがあるように見えるが、読んでみると、思いつくままに書かれていて、話の順序を考えて書いたとは思えない。つまり構成意識が認められない。以上より、「1」となる。

プロンプト1:「個人旅行」と「パック旅行」

構成・結束性2のサンプル

子供のときに学校でパック旅行しました。色々なところに行きました。フランスだけでした。バスで行って、町や美術館を訪ねました。前夜お母さんは食べ物を支度しました。サンドウィッチとか果物さとにがカバンに入れました。そのときはとても嬉しかったです！友達と旅行ができました。この期間の後で、中学と高校のときも旅行できました。ドイツとイタリアとスコットランドに行きました。とても楽しかったです。一週間や二週間泊まりました。たくさん習いました。この国たちの高校に授業に行きました。若いときにパック旅行はとてもいいと思いますが、20才以上で個人旅行するのほうがいいです。たくさん人たちが会えて、色々な行ってほしい場所に行ける。私個人旅行を多くしました。両親とたくさんヨーロッパの国に行きました。スロベニアとかドイツとか英国とかスペインとかに旅行しました。一人で最初の旅行は2014年の夏にしました。日本にwoofingをしました。成田空港から、woofingの場所まで迷わないようにしました。このときにいっぱい日本人と外国人を会いました。次年も同じ場所に行きました。日本と韓国に個人旅行をしました。色々場所を訪ねました(沖縄、広島、京都、和歌山と他の場所)。友達も会いました。今、私は個人旅行のほうが好きです。パック旅行をしたら、自由ではありません。例えば、10時にこのところに行かなければなりません、7時に起きなければなりません。これは好きではありません。

【解説】

パック旅行、個人旅行の話をしてから、最後に自分の好みを述べており、「構成意識」はある。しかし、段落分けをしないで、全文を1つのパラグラフで書いており、「パラグラフ意識」はない。また、一応の「構成意識」はあっても、自らのパック旅行、個人旅行の経験を述べているに過ぎず、序論に当たるものも見られないため、「マクロ構成」に当たる部分が認められるとは言えない。以上より、「2」となる。

プロンプト1:「個人旅行」と「パック旅行」

構成・結束性3のサンプル

外国の旅行時、二つのオプションがあります。オプション番号1は個人旅行です。その意味は君は旅行について考えますと旅行の計画を作ります。たしかに、その場合にはあなたがあなた自身時間の主人と好きな所へ行くことができます。古い砦を見て好きですか。大きなショッピングモールで買い物したいですか。いいえ。もしかして、ただ浜へいきたいですか。それは大丈夫ですよ。それは君の結論ですね。そして、きみは群衆好きではない場合、完全ですね。

でも、その場合は、ちょっと問題があります。何が問題ですか。君は自身にしていますよ。準備するの時、たくさん研究しなければなりません。国と町の歴史にくいて読まなければなりませんと自分の国と外国の通貨比べるは必要です。そして、外国の料理はどんなですか、いいレストランはどこですか、水道水を飲むことはいいですか。それは全部大切なことですよ。

しかし、オプション番号2がありますね。そのオプションはパック旅行です。その場合には、旅行会社で外国へ旅行します。君のために、旅行会社はホテルのアパートを予約すると旅行の計画を作ります。いいえ、旅行会社は全部仕事をします。君の仕事はただお金を出すと休む。でも、君は計画を作らなから、あなたのグループはもしめんどくさいの場所へ行きます。その場合には、たしかに、あなたは行く必要はありませんけど、お金の出すのはむりですね。そして、もしツアーガイドもめんどくさいであることがはんめいします。

だから、両方のオプションはプラスとマイナスがあります。

【解説】

個人旅行のプラス面とマイナス面、パック旅行のプラス面とマイナス面を述べ、最後に短いながらも結論があり、「構成意識」は認められる。段落に分けられており、「パラグラフ意識」もある。また、パラグラフ間は「でも」「しかし」「だから」といった接続詞を使用しており、結束性も認められる。しかし、序論の働きをしていると思われる「外国の旅行時、二つのオプションがあります。」が本論に組み込まれており、序論に相当するパラグラフがないため、「マクロ構成」に問題があると言える。以上より、「3」となる。

プロンプト1:「個人旅行」と「パック旅行」

構成・結束性4のサンプル

知り合いのいない国を1週間旅行するとしたら、私は「パック旅行」をすると思う。どうし私はこの旅行のタイプを選ぼうか？

実は、外国を1週間旅行するとしたら「個人旅行」をしたらこの旅行はちょっと寂しくなると思う。個人旅行のメリットがもちろんある：何時でも、私は何でも、どこでも行きたい場所としたいことを決めることができる。例えば、私だけが何かを選んだら、反対の意見がないし、私が何でもの決めたなら他の人がいれば選択は多分最も難しくなるかもしれない。起きる時間を決めて、私は例えばある日一日中何もしたくなかったら、誰もが私の選択を責めることが出来ない。従って、完全な自由だと思う。

しかし、この完全な自由のデメリットもあると思う。先ほど書かれたこととして「個人旅行」のメリットがある。ただ、全てのことはプラス面とマイナス面があるから、「個人旅行」のデメリットもある。私の意見では、一番大変なことは自分だけで旅行をしたらは寂しさを感じることだ。

個人旅行をもうしたことがあるから、この感じをよく理解することが出来る。この個人旅行は東京都であった。そのとき、私の修士1年生を卒業するために外国で3ヶ月以上の修士をしなければならなかった。日本に行ったことがもうあっても、2年前は1ヶ月の旅行だけだったから寂しさを感じる時間が短すぎたからこんな感じを感じられなかった。

東京都にいったときはもちろんとても面白くて楽しかったが、個人旅行だったから私は一人でこの素晴らしい町を発見してしまいました。私の生活で、私が何かを好きなら他の人と一緒にシェアしたい。旅行は「忘れられない思い出」を作るためのことだと思うから、一人で旅行をしたらは私の「旅行」ではなくて、私向けの旅行のタイプではない。

最後に、私の旅行のイメージによると知り合いのいない国を1週間旅行するとしたら、私は「パック旅行」をすると思う。グループだったら、みんなと一緒に全てのことをシェアすることが出来るから、この旅行は「忘れられない旅行」になってこの旅行のタイプを絶対にして欲しいよ！「個人旅行」をすることはそんなに大変なことではなくても、東京都にもう一回旅行したら、「パック旅行」を選ぶ。

私は入賞された人になったら、弊社「日本さくら旅行」のお蔭で、もう一回グループと一緒に、東京都を発見することをできるようになって、忘れられに思い出を作ることできる。

【解説】

段落分けされており、「パラグラフ意識」はある。また、序論、本論（個人旅行のプラス面、個人旅行のマイナス面、自分の体験）、結論（パック旅行を選択）の順に論が展開し、「マクロ構成」も認められるが、序論が短くバランスが良くない。また、自分の経験についての説明部分（第4パラグラフ）や最後のパラグラフにつながる部分は、結束性が高いと言えない。以上より、「4」となる。

*なお、このサンプルではパラグラフ間が1行空けられているが、特に空ける必要はない。

プロンプト1:「個人旅行」と「パック旅行」

構成・結束性5のサンプル

私は旅行をするのが好きです。旅行をしたければ大事なことを決めないといけません。パック旅行に頼りますか。それとも自分で準備しますか。どちらの選択は一長一短があります。

「パック旅行」というのは旅行会社に準備される旅行の仕方です。あまり旅行をした経験がない人には一番いいオプションでしょう。旅行会社の旅行業者はたつぷりと経験があるのでアドバイスをすることができます。例えば、国に到着してからどうやって移動できるかや必ず見逃せない観光名所を教えることができます。それに現代社会には自分の時間がないので忙しい人にとってはすごく便利だと思います。あと、旅行業者は個人的なサービスをすることもできます。これは、お客様の趣味や好みによって一番いい旅行を準備するというわけです。

でもその反面お金はかかります。どしてかというとな旅行業者が一番安い旅行じゃなくて自分の都合のいい選択を選ぶ可能性もあります。その上、他人に旅行を準備されたらオプションも限定されることになってもおかしくはありません。

「個人旅行」というのは自分で準備する旅行の仕方です。会社に払わなくてもいいので一番安いオプションです。あと、自分で全部するので一番都合のいい移動し方や見たい観光名所をプランすることができます。それにいきたい日も選ぶことは可能です。その上レンタカーや案内者のような アディショナルサービスを自由に予約することができます。

その一方慣れていない人に自分で旅行の準備をするのは難しいと思います。あと、何かがあったら多分手伝ってくれる人はいません。そしてあまり有名ではない国に行きたかったら旅行業者じゃなかったらなかなかできないと思います。

私はどちらかというとな個人旅行のほうが好きです。どしてかというとな自分で自由に準備をするのは楽しいと思います。その上ネットでホテルや飛行機を予約したらとても安くなります。その貯めたお金を買い物やお土産に使うこともできます。

【解説】

段落分けがされており、「パラグラフ意識」はある。また、「マクロ構成」は、序論、本論（パック旅行のプラス面、パック旅行のマイナス面、個人旅行のプラス面、個人旅行のマイナス面）、結論となっていて、そのバランスも適切である。序論で「どちらの選択は一長一短があります。」と述べ、本論ではプラス面からマイナス面に話が転換する部分で「でもその反面」「その一方」といったパラグラフの関係性を示す表現（メタ言語）が適切に使われており、パラグラフ間の結束性も高い。しかし、序論と結論の呼応は認められない。以上より、「5」となる。

*なお、このサンプルではパラグラフ間が1行空けられているが、特に空ける必要はない。

プロンプト1:「個人旅行」と「パック旅行」

構成・結束性6のサンプル

少し忙しい都市生活から休みたい時や新しい印象が必要だと感じる時、旅行するのは一番良い方法である。現在、旅行代理店が多く、旅行に関する営業もよく発展しているおかげで、外国へ行くのは問題ではない。旅行代理店は様々なサービスを提供しているが、個人旅行を選ぶ人も多いだ。両方はもちろん、それなり便利だが、私にとっては個人旅行のほうがいい。

パック旅行の長所は旅行代理店が面倒な手続きを全部済ませるということだ。ホテルの予約、交通費、遠足ルートなどを安心して旅行代理店に任せれば良い。ガイドなどの用意も旅行会社の仕事である。そして、ある名所や博物館をグループ遠足としてしか訪れることが出来ない。が、全てが計画通りでなければならない。一分でも遅刻するのはいけない。パック旅行は行為自由が確かでない。ゆっくりと散歩したり、建築物や自然の美しさや雰囲気を楽しむ暇もない。

その一方で、個人旅行の時好き勝手にしてもいい。グループを困らせる恐ろしさも心配もなしに、自分で名所を選び、過ごしたい時間も選ぶことが出来る。それでも、短所もある。まず、一人で旅行するのはやはり危ないと思う。更には、ガイドがないから、英語や訪れている国の言葉を話せるのも大事だ。そして、ホテルの予約などで何か問題が起こったら、自分で何とかするしかない。

けれども、私が選ぶのは個人旅行だ。グループで早く早く名所を走り回って、いつもだれかのせいであせったりするのはいい旅行であるまい。もし滞在時間を精一杯と味わいたかったら、個人旅行に越したものは無い。

【解説】

段落分けがされており、「パラグラフ意識」はある。また、「マクロ構成」は、序論、本論（パック旅行のプラス面とマイナス面、個人旅行のプラス面とマイナス面）、結論となっていて、そのバランスも適切である。本論ではパック旅行から個人旅行に話が転換する部分で「その一方で」が使用され、さらに最終パラグラフでは、結論の冒頭にくる接続詞としては一般的ではないものの、その前のパラグラフの最後を受けて、「けれども」が使われており、パラグラフ間の結束性も高い。

序論で「個人旅行のほうがいい」と述べ、結論でも自分が選ぶのは「個人旅行」であることに再度言及していること、および、序論で「忙しい都市生活から休みたい」時、旅行は良い方法だと述べていることが、結論の「グループで早く早く名所を走り回って、いつもだれかのせいであせったりするのはいい旅行であるまい」と内容的にもつながりがあることから、序論と結論に呼応があると認められる。以上より、「6」となる。

*なお、このサンプルではパラグラフ間が1行空けられているが、特に空ける必要はない。